NIE実践報告

1．タイトル：**高校野球の特待生問題を考える**

2．学校名

広島県立江田島高等学校

3．実践者名（代表者名）

大森裕之・岸野大

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習の時間・課題研究（学校設定教科）　6人

6．単元（本時の学習課題）名

高校野球の特待生問題を考える

7．目標(狙い)

生徒にとって、高校野球は同年代の学生がやっている身近なスポーツである。高校野球の特待生制度が抱えている問題について考え、自らの高校生活を考え直してみる機会になれば良い。

8．評価の視点

「高校野球の特待生制度」について、正確に事実を把握してどこに問題があるかを考え、自分なりの意見を持つことができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「高校野球の特待生問題を考える」[課題研究：4時間]

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①特待生制度とはどんなシステムなのか、また特待生にはどんなメリットがあるのか等について考える。（1時間）
②高野連が特待生制度を全面的に禁止しようとしたのはなぜかを新聞記事から読み取る。（1時間）
③特待生を禁止した場合、どういうことが予想されるかを考える。（1時間）
④米英仏中韓等、諸外国の特待生はどうなっているかを新聞記事から読み取り、特待生制度の是非について自分なりの意見を持ち、文章に書く。（1時間）

（留意点）
・すべての時間で、特待生関連の新聞記事をまとめたプリントを配布し、必要な箇所については音読させる。
・特待生制度についてまとめた虫食いの作業プリントを配布し、記事を正確に読み取る力をつけさせる。
・読ませる記事については、論調が特待生制度について賛成・反対のどちらかに偏らないように注意する。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

高校野球は身近なスポーツであり、また自分たちと同世代の高校生が抱える問題ということもあってか、特待生制度の是非について真剣に考え、どうあるべきか自分なりの意見を持つことができた。

12．成果と課題

昨年度世間を騒がせた問題であり、扱った時期もタイムリーだったので、概ね生徒の反応は良かった。また、賛成・反対で分けることができるテーマなので、自分の意見を持ちやすかったのではないかと思われる。来年度は、今回のように生徒にとって身近な話題を取り上げ、ディベートにも挑戦できればと思っている。